

現在、資本主義は世界で多く取り入れられている経済体制である。資本主義は経済力を高めることででき、自由な商売ができるが、貧富の差の拡大など、平等性に欠ける。貧富の差が拡大しすぎると富の多いものが少ないものを奴隷のように従えることができる。これを防止するためにあるものが法律だ。現在の社会は多くの国がこのような体制を採用している。

しかし、この資本主義経済と民主主義をもってしても権力の暴走は起こってしまうのである。私は権力の暴走はある程度までは防止することができるが、ある一定のラインを超えてしまうと防止は困難だと考える。

まずは資本主義的な権力の暴走から見ていこう。今日ニュースなどで話題に上がるテスラ社やSpace X社CEOのイーロンマスク氏について考えていく。彼は莫大な富を持ち、世界長者番付にも名を連ねる人物だ。その個人が先日Twitter社を買収した。マスク氏はこのTwitterというアプリケーションをスーパーアプリにすると明言した。これにより、Twitterでの表現の自由の確保などを発言した。表現の自由というのは一見すると良いことにも思えるが、私はそうは思わない。今までTwitter社は誹謗中傷などは厳しく罰してきた。これによりLGBTQの人々などは自分をありのまま発信することができた。しかし、マスク氏が買収したことで表現の自由と称し差別的発言や誹謗中傷ができるようになってしまったのだ。これは富を使って権力が暴走したと言えるのではないだろうか。しかし、この暴走は法律で押さえつけることができるはずだ。

では法律など政治的な観点から見ていこう。民主主義国家は法律や憲法などの決定権は国民にある。国や自分達が不利益を被るものは基本的には承認されないはずだ。しかし、歴史の中には独裁的な法案を通した事例がいくつかある。最近だとロシアのプーチン氏がそうである。国民にメリットのある法案の中に一つだけ独裁的に動ける法案も紛れ込ませるのである。このようにして起こったのが現在のウクライナ軍事演習である。これは民主主義の中で起こった権力の暴走と言えるだろう。

このように資本主義と民主主義といった多くの国で使われている社会体制でも権力の暴走が起こってしまっている。資本主義的な暴走を防ぐことは法律でなんとかなる場合が多いと考えるが、今回のロシアの件のような暴走は止めることはかなり困難だと考える。

このような事態にならないように防止策を考える。まず一つは世界や国民がしっかりと国を監視することだ。民主主義では国民が罷免したり棄却することができる。一度法案などが通ってしまうとそれを却下することは難しいため、選挙などの際にしっかり確認することが大事だと考える。

このように暴走はさまざまな観点から起こってしまう。また、起こってしまった暴走を止めることは難しいため、事前の対策を徹底していく必要があると考える。